

古民家の野外博物館

# 日本民家園だより

平成元年度第4号

《通号第19号》

発行 2.2.1

川崎市立日本民家園

川崎市多摩区枳形7-1-1

電話 (044)922-2180~1

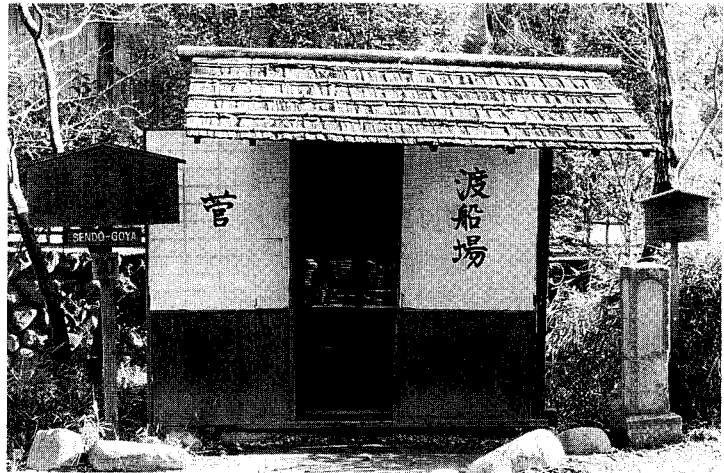
印刷 (資) 永 申 社

## 多摩川・菅の渡しの船頭小屋

- 船頭小屋
- 木造, 切妻造, 杉皮葺
- 平面積 3.31㎡
- 旧所在地 川崎市多摩区菅  
1961先
- 昭和48年7月 菅町会より  
川崎市に寄贈
- 直ちに解体・輸送し, 同年9  
月に竣工(直営)

### ◆昔は寝泊まりもした移動式の小屋

武蔵の国を流れる多摩川には多くの渡しがありましたが, その一つの「菅の渡し」にあったのが, この小屋です。以前は「上菅の渡し」と「下菅の新渡し」がありましたが, 昭和11年ごろに合併して, 現在の京王線の鉄道橋の下で一つになりました。昔はフトンを持ち込んで寝泊まりもし, 休憩や見張りをした小屋は, 昭和4年に「下菅」で作られたものを移したものです。もともとこの渡しは「作場渡し」として, 江戸時代以来, 菅の農民が対岸の石原(調布市)の畑にかよったり, 作物を江戸の市場に運ぶ重要な渡しでしたが, 後には稲田堤の桜見物の客を運んだり, 京王閣競輪場へのギャブル渡しとなった時代もありました。しかし京王新線の開通などにより利用客も減ったため, 昭和48年6月にその使命を終えました。最後のこの渡し賃は人が20円(月極め600円), 自転車25円, バイク30円だったとのこと。



菅の船頭小屋

この小屋は移築前は屋根も囲りもトタン板張りとなっていたようですが, 本園への移築を機会に, もとの杉皮葺屋根, 板張り壁にもどしました。切妻の屋根は前に約1mの出の軒があって風雨をしのぐようになっており, 背面には見張りの窓もついています。なかは半分が床張り, 半分が土間で, 土間にはイロリもついています。おもしろいのは四隅の柱についている直径約13cmの鉄製の環で, これは洪水の時などに, この環に丸太を通して4人でかっいで移動させたとのこと。したがって土台があって4本の柱で作られ, 持ち上げてもこわれない構造になっています。大ぜいの人々に利用された「渡し」の最後の船頭さんは, 戦後でも9名いたというのに4名だけとなり, どの人も今年六十のおじいさんに近い風ぼうでした。

## ◆ 民具づくり教室

### —草木染め—

玉ねぎなどでハンカチや布地を染めます。親子でご参加ください。

- 日時 2月25日(日) 午前10時より
- 定員 親子15組(原則として1組2名)
- 教材費 1人につき700円
- 申し込み 2月4日(日) 午前9時より  
電話で先着順

# 催し物 の ご案内

## ◆ 体験学習

### —草ダンゴ作り—

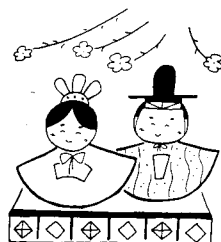
ヨモギのいっぱい入った草ダンゴを作ります。

- 日時 3月11日(日) 午前10時より
- 定員 25名      ○教材費 300円
- 申し込み 2月25日(日) 午前9時より電話で  
先着順  
皆様のご参加をお待ちしております。



## ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆ 年 中 行 事 展 示 ◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

- <2月>節分 イワシの頭とヒラギを戸口にさします。  
ヨウカイノ  
八日僧 一目小僧を追い払うため目籠を掲げます。
- <3月>雛祭り 雛人形を飾ります。  
ヨカゲ  
蚕影山祭り 幟を立て養蚕の神様をまつります。



## 多 摩 川 の 渡 し

## (川崎市域)

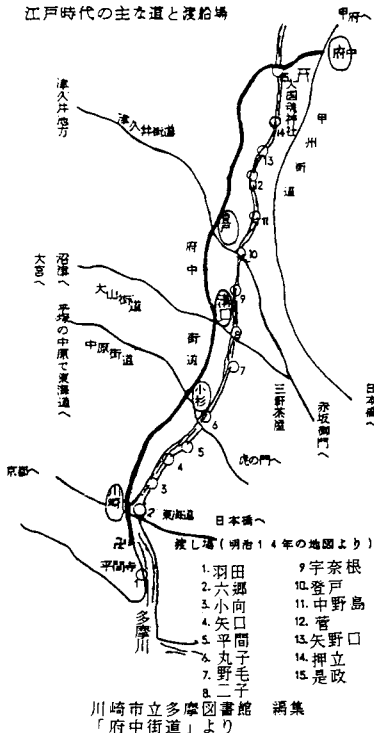
「箱根八里は馬でも越すが、越すに越されぬ大井川」と歌われているように、河川は交通運輸上、大きな障害のひとつとなっていました。河川のなかでも小さなものには、橋を掛けたり、歩いて渡っていましたが、それが不可能な場合は船を利用していました。

多摩川の渡船場は、大小合わせると27か所に及んでおり、甲州街道の日野・東海道の六郷は五街道上にあったので、特に利用頻度が高いものでした。

川崎市域の渡船場をみると、北部の是政から南部の羽田まで15か所ありました。このうち、登戸・二子・丸子・六郷の渡船場は街道上にあり、旅の道・物資運搬の道・信仰の道として、数多くの人々が通過したようです。また、この他の渡船場は、一般旅行者が利用できない渡船場であり、近隣の農民が対岸の耕作地に行ったり、収穫物を運搬するのに利用していました。そのため、渡船賃はその都度支払う方法はとらず、年度末にまとめて賃銭や収穫物を代納する方法をとっていました。

このような、仕事場に行くために利用する作場渡しは、近隣の農民を対象としていたため、公の渡しよりも低料金でした。そのため、一般旅行者などが密かに利用する場合があります、時として問題ともなっていました。

江戸時代の主な道と渡船場



## 旧岩澤家住宅のふるさと 愛甲郡清川村の生活

園内の神奈川の村で、民家園で23件目にあたる旧岩澤家住宅の復原工事が始まりました。

この家は、神奈川県愛甲郡清川村煤ヶ谷にあった上層農家の住宅で、17世紀の終わり頃に建てられたとみられています。家の様式は、神奈川県の近世民家で一般にみられる三間取広間型ですが、構造的にはかなり古い形式のもので、県下の民家の発達をたどる上で極めて重要な建物といえます。保存状態もよく、昭和61年に神奈川県の重要文化財に指定されました。



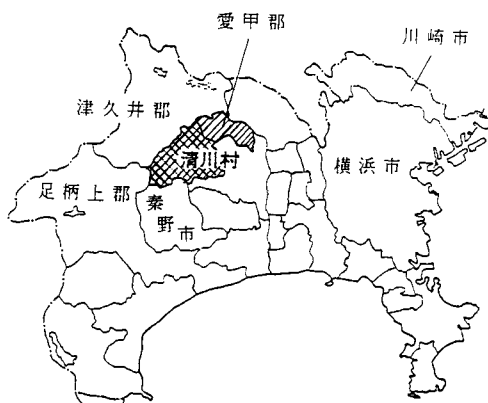
旧岩澤家住宅（移築前）

この家の旧所在地である愛甲郡清川村は、神奈川県の西北部、丹沢山地の谷に位置する県下で唯一の村です。集落は、煤ヶ谷と宮ヶ瀬の2つの地区から成り立っており、煤ヶ谷は相模川の支流の小鮎川沿いに、宮ヶ瀬は中津川沿いにひらけていますが、宮ヶ瀬地区は中津川に造られるダムによって将来は湖底に水没することになっています。

清川村は、丹沢山地の谷に立地するため、全体として耕地は少なく、林産物などの生産が古くから生業の中心を占めていました。延享元年（1744）の「愛甲郡煤ヶ谷村差出帳」（『神奈川県史』資料編7収所）には、田が5町5反、畑が118町3反などとあり、「男耕作之間二者白炭・鍛冶炭・真木・薪勝手次第山稼仕、厚木町市場江道法式里余附出シ売代替渡世送り申し候、女朝夕之間自分薪取渡世送り申し候」などと記されています。近世末に編纂された『新編相模国風土記稿』の煤ヶ谷村の条には、戸数が283戸で「土人農隙に是を焼活計となせり、白炭と呼り」とあります。（炭焼きについては、小田原北条氏時代の史料にも、毎年12月に小田原に炭を献じたことが記され、良材があったのでこれも小田原に運んだという記録があります。）また、同書には「鉄砲四十二挺を許可せられ、山林に猟する事を余業とす」とあり、狩猟活動も盛んであったこともうかがわれます。

以上のような近世、近代の諸資料から、山間集落である清川村では古くからその生計を炭焼きを中心としてたてていたことがわかります。古老の話によれば、炭焼きは一年を通して行う人もいました

が、通常は10月の農作業が終わってから、春蚕の始まる5月初旬ごろまで続けられました。清川村ではヤマモチといわれる山林地主は少なく、炭焼きや林業は村有林などの共有林で行われるのが大半だったようです。炭焼きの盛期には、2里も3里も離れた山のオキ（沖）で炭焼きを行い、毎朝3時頃松明を持って家を出て、夜9時か10時頃に帰るといった生活が続きました。毎日家から竈まで通い、焼いた炭をヤセウマで担いで帰ってきたといわれています。このように炭焼きが盛んだったのも第2次大戦頃までで、現在では丘陵斜面を利用したお茶の栽培が多く行われるようになりました。



## 園の動き

### ◆「文化の日無料開園」と自由参加行事の開催

<11/3>

天候にも恵まれて、例年以上の約2500名の入園者がありました。多くの方が、自由参加行事ーワラで民具を作ろうーに参加して、思いがけない記念品を手にしていました。



ゾウリ作りに挑戦

### ◆ 民具づくり教室ーしめ縄作りー開催

<11/26, 12/3, 10>

今回は3日間にわたって開催し、特に最終日にはしめ縄作りで修得した技術を応用して、ゾウリ作りに挑戦していただきました。手づくりの楽しさを満喫していただけたのではないのでしょうか。

### ◆ 体験学習ー小正月のマユダンゴ作りー開催<1/14>

蚕の安全を祈るため、小正月に飾る餅花の一種マユ玉を、石臼、こね鉢、かまどを使って、昔ながらの方法で作っていただきました。飾りつけられたマユ玉は、1月の間旧北村家に展示しました。

### ◆ 文化財防火デーにつき園内防火訓練を実施<1/26>



園内の石敢当

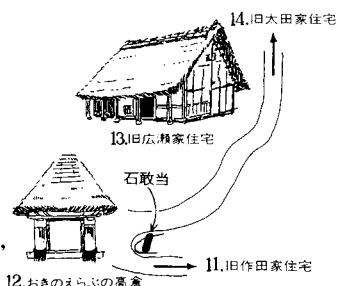
## 園内の石造物案内(5)ー石敢当ー

石敢当(インガントウ)は魔除けの石です。かつて人々は、道の辻、T字路の突き当たりといったところは悪鬼が横行していると信じていました。それゆえ、悪鬼を追い払うため、石に石敢当と刻み、辻、T字路の突き当たり、三叉路、山中の分かれ道などに立てました。時には、家の土台石に石敢当と刻んであることもあります。

この慣習は、元をたただせば中国から伝わって来たもので、わが国

では従来、「石敢当」という名称は中国の豪傑の名前であると言われてきました。しかし中国における石敢当は、本来、「石が悪鬼に敢えて当たり」悪鬼を除けるとする意味があったようです。おそらく、石の堅さに呪力を感じた結果生まれた信仰ではないでしょうか。

わが国の石敢当は、青森県黒石市を北限とし、沖縄県まで分布していますが、沖縄県が最も多くなっています。園内にある石敢当も、元は沖縄県の宮古島にあったものです。



石敢当は上図の位置にあります

### 編集後記

寒い日が続いておりますが、お元気ですか。平成元年度最終の民家園だよりをお届けいたします。本年はうま年でもあり、馬は千里を走るとも言いますが、共に走る意気も新たに、私ども職員一同頑張っております。平成2年度も更に内容を充実させて、皆さんから親しまれる広報誌が作れますよう努力してまいりたいと思っております。(K)